似たもの同士

昆虫界においても、似たものが多く存在する。理由は弱い生き物が毒の有るものなどに似せて、強いものから難を逃れようとするなど、いろいろあると思う。だが、「よくぞここまで似たものだ」と感心する。なかには、弱いもの同士が似ていて、それなりに理由があるのかなと思ってしまうことがある。
「百聞(ひゃくぶん)は一見に如(し)かず」。まずは見ていただこう。当然のことながら、この福田で探してみた。

左はハムシの仲間で「テントウノミハムシ」ノミという名がつくということは小さいという意味がある。体長は 3~4 ミリで、気をつけて見ないとなかなか目にすることはない。ヒイラギやキンモクセイなどの葉を食害する嫌われ者である。
右は「ナミテントウ」で、アブラムシを食べてくれる益虫として、また子どもたちの人気者でもある。

左「クロボシツツハムシ」右の「ナナホシテントウ」に似ていなくもない。テントウムシは苦い体液と悪臭で身を守っていて、クロボシツツハムシもその恩恵を受けているようである。

「アリグモ」こちらは昆虫ではないが，他の目(目とは生物分類上の網・目・科の一つ)でありながら、ここまで似せてきたことにビックリである。特に前足を触覚に似せるところなど脱帽である。

「クロヤマアリ」里山ではごくふつうにみられるアリの仲間である。アリの種類については、過去の「蟻(アリ)」を参照していただきたい。

右「キイロシリアゲアリ」は体長２~3 ミリと非常に小さなアリで、林内などの石の下などに巣をつくる。左はハチの仲間と思われるが、図鑑などで調べてみたがいまだにわからない。
しかし頭部や触覚以外は大変よく似ていると思う。

左「コウスバカゲロウ」、右は「オツネントンボ」。他にもツノトンボがいるが、触覚が異常に長いのでここでは扱わない。コウスバカゲロウとツノトンボは、共にアミメカゲロウ目に入っているが科が違う。興味のある方は図鑑やネットで調べてみてほしい。

上左「スカシバの一種（ガの仲間)」、上右「ヨツスジトラカミキリ」は下のハチたちに似せて鳥などから身を守っているのかな。下の左は「キアシナガバチ」、右は「キイロスズメチ」。どちらも攻撃的なハチで近寄らないのが一番。

最後は左「コカマキリ」と右「ヒメカマキリモドキ」。もう、ただただ驚きの世界である。特にヒメカマキリモドキはカゲロウの仲間である。あのか弱い虫が生き残りをかけて進化してきたと思うと、生物界の奥深さに興味が尽きない。

赤木賢治通信員